

19. 産業の復旧（水産業）

水産業の復旧は、漁港の復旧、漁場の復旧、市場の復旧などがある。

漁場の復旧は、漁場復旧対策支援事業等による海中・海底のがれきの撤去や万石浦において干潟の復旧が行われるなどした。

漁港の復旧は、県管理の漁港、市管理の漁港それぞれで復旧事業が行われており、現在も継続中である。

市場の復旧は、石巻魚市場(水産物地方卸売市場石巻売場)および水産物地方卸売市場牡鹿売場が、新築再建された。

石巻魚市場は、平成23年(2011)7月12日に水揚げが再開され仮復旧し、新たな施設は平成27年(2015)9月に完成した。(314ページ参照)



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲魚市場水揚げ再開のあいさつの様子



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲魚市場水揚げ再開



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻西港仮設 荷さばき所水揚げ



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻市魚市場 仮設



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻市水産物地方卸売市場 仮設事務所



▲水揚げされた魚

20. 産業の復旧（商工業）

商工業は、事業者による復旧復興が原則であるが、多くの事業者が、国・県・市からの補助金や税の優遇措置を受けることができた。

石巻市の工業港背後地の工場の多くは自力再建した。また、市内最大級の事業所である日本製紙石巻工場では、工場設備に大きな被害を受けた。従業員は避難して全員無事だったが、工場1階が津波で浸水し、出荷前の製品も流出した。

すぐに再開が宣言され、平成23年(2011)9月16日に8号抄紙機の運転を再開、被災からほぼ半年での操業再開となった。その後、順次復旧し、翌年8月には震災前の生産能力を取り戻した。

また、自家発電設備を持っており、東北電力へ電気を供給したほか木質系のがれきを燃料とし、災害廃棄物の処理にも一役買った

海や川に近い商店街は大きな被害を受けたため、仮設の商店街がつけられた。

石巻地区では立町ふれあい商店街、雄勝地区ではおがつ店こ屋街、牡鹿地区ではおしかのれん街がつくられ、事業を継続した。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲立町二丁目（ふれあい商店街）



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲立町二丁目（ふれあい商店街）



石巻市//東日本大震災アーカイブ宮城

▲おかつ店ご屋街



▲おしかのれん街

21. 医療の復旧

市内の公立医療施設は、市立病院・雄勝病院・寄磯診療所・夜間急患センターが津波の直撃を受け、いずれも使用不能となった。

寄磯診療所は、仮設で再開し、平成27年(2015)1月19日新築移転した。

市立病院は、南境に仮設の診療所を設けた。そして、平成28年(2016)9月1日に市役所の隣接地に新築移転した。

夜間急患センターは、日和が丘に仮設診療所を設け、再開していたが、平成28年(2016)12月1日石巻赤十字病院敷地内に新築移転した。

雄勝病院は診療所として再開することとし、平成29年(2017)1月16日に雄勝診療所・同歯科診療所として新築移転した。

雄勝の両診療所の開所により市内の公立の医療施設の復旧は完了した。

また、東日本大震災により、脆弱化した石巻市の東部地区（湊、渡波、稲井、荻浜、田代地区、雄勝地区、北上地区、牡鹿地区、旧河北町大川の区域）における地域医療体制を確保するため、「石巻市東部地区医療施設整備促進事業補助金」を設け、病院または診療所を新設する医師または医療法人に対して、用地取得費の半額(上限5,000万円)を補助することとし、この補助を受けた八戸市に本部を置く「医療法人仁泉会」が渡波地区に平成28年(2016)4月5日、「わたのはクリニック」開院した。



▲市立病院完成



▲市立病院開院式



▲市立病院 受付



▲市立病院 受付